

残念ながら前回は最終報にならなかった16報目の留学報告書です。この半年は色々ありました。。。

1. Stanfordでの研究活動について

博士論文のためのメインプロジェクトで全く良い結果が出ず、一年程度同じところで詰まっていますごく苦しい状況だったのですが、クリーンルームで使用していた装置のソフトウェアのアップデートにバグが入っていて、アップデート後に作製した全てのものが失敗していたということが、11月にわかりました。。。良い結果が出ない理由をいろいろ試行錯誤していたのですが、その間に迫ってくる様々なプレッシャーがかなり辛かったです。この原因判明から三ヶ月経ち、ようやく良い結果が出たので、ようやくディフェンスをスケジュールすることができました。5月初旬にディフェンスをして、6月に卒業することになりました。なんとコミッティーにノーベル賞受賞者が入ったので驚いています。京大に在籍していた10年近く前に彼の論文を読んだことがあったのですが、「こんなすごいことが光学顕微鏡でできるのか!」と当時思った記憶があります(当時、彼はまだノーベル賞を受賞しておらず、そんなにすごい人だとは思ってなかったです。笑)。その論文は私を光学顕微鏡の世界に誘ったものの一つで、そんな論文の著者の彼がコミッティーに入るなんて、世界は狭いし繋がってるんだなぁと感慨深いです。

博士論文とは関係がないのですが、COVID-19の影響でキャンパスに行くことができずに始めたプロジェクトをICCP (International Conference on Computational Photography)という学会にサブミットしました。まだ結果が出てないのですが、次の博士取得記念報告書でアクセプトされたことを報告できることを願っています。

2. 生活について

私生活でも色々あったのですが、なんと人生で初めての手術を受けました。後遺症もない短い簡単な手術だったのですが、なかなか緊張する経験でした。もちろん手術が問題なく終わるか不安だったのですが、以前の報告書でも書いていた通りアメリカの医療費は一体どれくらいになるのかわからず不安でした。どれくらいの金額になるのかを保険会社に事前に電話で確認

し、保険の契約書を読み、その金額が正しいことを確認し、手術を受けて請求が来るのを待ちました。そして、案の定(?) 予想していた金額の数十倍の請求が来ました。自転車操業的に生活してる学生にとっては中々に厳しい金額で、ここから私が正しいであろうと思う金額に訂正してもらうまでの三ヶ月に渡る戦いが始まりました。とても重要な点は、この請求書が被保険者には意味のわからないように書かれていて、どういう理由でその金額になっているのかわからない仕様になっていたことです。保険の契約書を再度読み込み、自分の考えが正しいことを再確認し、幾度となく保険会社と病院に電話をし、先日ようやく訂正してもらうことができました。高額な請求書が毎月届くのですが、自分が正しいと信じて、それを払わずにいるところが不安で難しかったです。終わって思うのは、保険の契約書をちゃんと読み込んで理解して、自分が正しいということを知って主張することが重要なんだなと思いました。結局、手術だけではなく、手術前の通院費用の請求も間違っていたことがわかりました。というわけで、留学中や留学前の方は自分の保険の規約をちゃんと読んでおくことをおすすめします。

3. その他

つい先日、2019年夏にGoogleでインターンしていたときのプロジェクトが元になった製品がローンチされました。自分がしていたことからかけ離れたものになったようですが、自分が関わったものが製品になり感動しました。もうGoogleとは関わりはないのですが、Acknowledgementsに名前も載せてもらえて非常に嬉しいです。

<https://ai.googleblog.com/2021/02/the-technology-behind-cinematic-photos.html>

就職活動も終わっていて、バイエリアにあるバイオテックの会社に就職することになりました。COVID-19の影響で就職活動は普通の時期よりも難しかったように思うのですが、自分にとってこれ以上はなく、予想すらしていなかったポジションを得ることができました。いろいろな想いがありすぎるので、このあたりは博士取得記念最終報告書に詳しく書こうと思います。